

小児期からの健康増進対策に関する研究 (小児期からの成人病予防に関する研究)

竹内 宏一、中村 留美子
浜松医科大

研究要旨 静岡県I市において、1993年、1994年の小学5年生時およびその3年後に生活習慣病予防健診を受け、結果の得られた者小児の3年間での変化を調査した。肥満度、血圧、血清脂質値全てにおいて、有意な相関がみられた。総コレステロール値200mg/dl以上の者の割合が、男では3年間で減少していたが、女では増加していた。

A. 研究目的

小児期からの肥満、高脂血症者の増加予防を目的とし、まず自然経過を把握するため、体格・血圧・血清脂質値を小学5年生から中学2年生にかけて調査した。生活習慣病予防健診を受け、結果の得られた

B. 研究方法

1993年および1994年における静岡県I市内の全小学5年生2217名（男1126名、女1091名）を対象とし、小学5年時と中学2年

表1. 小学5年生から中学2年生の肥満度・血圧・血清脂質値の相関

	男	女
肥満度	0.87 **	0.82 **
収縮期血圧	0.43 **	0.41 **
拡張期血圧	0.35 **	0.38 **
TC	0.72 **	0.73 **
HDL-C	0.69 **	0.63 **
AI	0.73 **	0.71 **

**p<0.01

E. 研究発表

1 論文発表

甲田勝康、中村晴信、他. 総コレステロールが高値を示す小学5年生の生活および食習慣—肥満児との比較—. 小児保健研究 1998; 57: 785-790

中村留美子、戸川可奈子、他. 同一質問に対する児童本人と保護者の回答の相違—生活習慣と自覚症状—. 東海学校保健 1998; 22: 7-11

時に受けた健診結果（身長、体重、血圧、血清脂質値）のトラッキングを検討した。

C. 結果と考察

対象とした児童2217名の内、小学5年、中学2年時点の検査結果の得られた1641名（男825名、女816名）について分析した。表1に小学5年から中学2年にかけての肥満度・血圧・血清脂質値（TC、HDL-C、AI）の単相関係数を男女別に示した。男女とも、肥満度が0.8～0.9と最も強い相関がみられた。表2に小学5年生、中学2年生におけるそれぞれの異常者の出現頻度を示した。男女とも、肥満児の頻度は、小学5年から中学2年にかけて大きな変化はみられなかった。血清脂質値は男では異常者が全体で3年後に減少していたが、女では高TCの者の頻度が増加しており、今後生活習慣等との関連を検討していく必要がある。

D. 結論

小学5年生から中学2年生にかけて、肥満度のトラッキングが最も強く、血清脂質値、血圧でもトラッキングがみられた。女でTC200mg/dl以上の者の割合が小学5年時より中学2年の方が多くなっていた。

表2 肥満・血清脂質値異常者の出現頻度

人数(%)

	男		女	
	小5	中2	小5	中2
肥満度	89(10.8)	82(9.9)	89(10.9)	78(9.6)
TC	103(12.5)	82(9.9)	118(14.5)	175(21.4)
HDL-C	20(2.4)	17(2.1)	32(3.9)	14(1.7)
AI	43(5.2)	21(2.5)	62(7.6)	36(4.2)

2 学会発表

中村留美子、他. 小学5年生における成人病予防健診結果と生活習慣との関連(第一報)－肥満を中心として－. 日本公衆衛生 1996; 43: 380

戸川可奈子、他. 小学5年生における成人病予防健診結果と生活習慣との関連(第一報)－コレステロール値を中心として－. 日本公衆衛生 1996; 43: 381

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用 ↓

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究要旨 静岡県 1 市において、1993 年、1994 年の小学 5 年生時およびその 3 年後に生活習慣病予防健診を受け、結果の得られた者小児の 3 年間での変化を調査した。肥満度、血圧、血清脂質値全てにおいて、有意な相関がみられた。総コレステロール値 200 mg/dl 以上の者の割合が、男では 3 年間で減少していたが、女では増加していた。